

(別紙2)

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年2月11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779500517		
法人名	株式会社 はるす		
事業所名	グループホームはるすのお家・阪南		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護 (介護予防認知症対応型共同生活介護)		
所在地	大阪府阪南市鳥取105-1		
自己評価作成日	令和3年2月11日	評価結果市町村受理日	令和3年5月13日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2779500517-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人エイジコンサーン・ジャパン
所在地	大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルITM棟9階
訪問調査日	令和3年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海を望むのどかな住宅街にあり、潮風を感じる中で穏やかに生活を送ることが出来る環境にあります。日々の生活が笑顔で楽しみあるよう、また不安な時にはすぐに対応出来るようにいつも近くにスタッフが寄り添い共に過ごす時間を大切にしています。家庭的な雰囲気の中で安心・安全な生活となるように一人ひとりの声に耳を傾け「共に生活する」との気持ちを忘れないようにしています。自身で出来ることは継続出来るように見守りを大切に、一緒に調理を楽しむことも出来ます。終末期になっても最期まで慣れ親しんだホームで過ごせるよう医療機関との連携も整え安心して過ごせるように支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

福祉事業を多角的に手掛ける「株式会社はるす」が運営している施設。
家庭らしさ、楽しさ、明るさをモットーに、共同生活をしながら家庭的な日常生活を通じて認知症をケアしていくことを心掛けている。
介護支援専門員でもあるホーム長は入居者一人ひとりの個性をよく認識され、その人の持っている残存能力を如何に活かしていくかを考察され、生活の中に取り込むようにしている。
毎日の食事では献立や食材購入、料理の全てをホームの職員で賄うようにしている。そのため栄養と好みの物とのバランスを考える事が可能になり、入居者にも喜ばれている。
健康と体調の面については協力医が24時間で連携し保身を図っている。ホームの基幹をなす入居から看取りまでの一貫した支援体制は家族からの安心と信頼を得ている。

グループホームはるすのお家・阪南 すずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とリビングに掲示し、全員で共有し実践に向け努めている	理念の主旨には明るさや楽しさが表現されており皆の家を連想させるものがある。理念の掲示板は玄関入口と各ユニットの壁に貼付されており職員一同の支援方針として謳われている。	理念に基づく地域特性を考慮した業務運営計画等を検討されていかれることに期待をしたい。地域に対し、さらに密着したサービスを展開できるのでないかと思われる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域との関わりを大切にしている。住民との関わりは少ないが廃品回収などに協力している。	コロナ禍で地域のイベントが軒並み中止になっている中でも、地域に開かれた事業所になるよう、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談など実施したいと考えるが難しく実践できるよう努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催をし、行政・ご家族様からの意見等を聞き、サービスに活かせるようにしている	運営推進会議には市職員や地域包括支援センター、自治会、入居者家族も参加しており、ホームの状況を把握のうえ、意見をもらっている。議事録も適切に整備され、家族への送付も行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	主にホーム長が介護保険課の方と連絡を取り、市役所に出向き顔の見える関係作りが出来る	市の担当課との連携も適切に行われており、運営推進会議でも直接的に関わりを持つことができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員を設置し、定期的な会議、また研修を通じて全職員が理解し身体拘束禁止に取り組んでいる	研修を積極的に実施し、権利擁護への学びを深め、身体拘束ゼロを保っている。身体拘束委員会も適切に実施され、議事録も整えられている。	運営推進会議の招集機会を活用し、2ヶ月に1度は身体拘束検討委員会に地域包括支援センターの同席を求め、メリハリのある委員会を目指してみようか。職員の意識向上にも有意義であると思われる。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や学ぶ機会を大切に虐待防止につなげている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいる為制度について深く理解が出来、必要に応じて支援出来ている。		

9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、見学の際も不安の無いように説明をしている。疑問点なども早期に対応するように心がけている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見など日頃からのコミュニケーションを大切に話しやすい関係作り運営に活かせるよう努めている	家族の訪問時には意見や要望などを聞き職員の連絡ノートに記入して職員間で共有を図っている。管理者は採択できる要素をよく考慮し、できる限り家族の希望に寄り添えるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時には、職員からの意見などを聞ける体制を整えるように努めている	申し送りや提案事項など、ノートに記入して、職員間の連携や意見交換に役立てている。日頃から、職員同士で意見を言い合える環境を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度の人事考課、またストレスケアにも気を配り環境を整えるよう努めている。事業所内は話しやすい雰囲気作りに気を配っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は難しいが、内部研修の充実を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターを中心に働きかけてくれているが、実際はなかなか難しい		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中から情報を得たり、行動から見える事、ご家族様からの情報も大切ににし関係作りをしている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安などに耳を傾け、安心しホームで生活が始められるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、状況を把握し、家族様の思い、希望を確認し必要なサービスへつながるよう努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をする。の気持ちを大切に関係作りをしている	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも助けていただく場もあるので関係性を大切にしている	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	疎遠になってしまいうことも多いが、関係が継続出来ることを伝え馴染みの関係が継続できるよう支援している	地域に密着した事業所として、気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けている。コロナ禍で中断してはいるが、入居者のお友達が面会に来られることも多くなり、挨拶や声掛けも徹底している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い雰囲気作りが出来ている。声を掛け合ったり和やかな雰囲気の時も多い。必要に応じてスタッフが間に入り良い関係となるよう努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関係も大切にしているが、看取りまで行うことが多くその後の相談等は少ないが、新たな入居者様につなげていただいた事例がある	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いを尊重し、選択できるケアとなるようにしている	一人ひとり考え方が違うことを理解し、また今までの生活やかかわり大切に本人の好き嫌いを見極めるようにしている。言葉だけでなく表情を読み取るようにしている。気づいたことは連絡ノートに記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からの情報収集をし共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりを大切にし、より良い生活となるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族様の意見も聞き、ケアプランの作成をしている	モニタリングを毎月実施し、ケアプランに反映させている。医療的処置についても連絡ノートに詳細に記入し、情報共有している。	本人や家族から聞き取った想いをケアプランに言語化し、それに基づく目標と期間を設定してみようか。それにより、自分たちを理解してもらえているという安心感に繋がると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人支援記録・連絡ノート等を用いて情報共有し、ケアプランへも反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内で出来ることは希望に添えるように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェや買い物など、今年度は活用出来ていない		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・ご家族様の希望に沿った医療が受けられるよう支援している	ホームの協力医である「さくらクリニック」から月2回の往診を受けているが、家族が入所前からのかかりつけ医を主治医として要望している場合は、家族の協力を得ながら希望に寄り添っている。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週に1度の訪問時だけでなく、日々の状態の情報共有をし、相談などもしやすく良い関係が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際、情報連携シートの作成、また地域連携室の方等との関係作りに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医との家族診も含め事業所で出来る事、また看取りについてなどの希望に添えるように対応している	重度化した場合の対応や終末期の看取りについて、利用者や家族の希望に基づいたケアが実践できている。 主治医とも連携が取れ、より幅広い対応を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故時の対応等は定期的に研修をし、対応出来るようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定し、研修等も含め対策を取っているが地域の協力体制はまだ足りていない	年2回、火災を想定した訓練を消防署員の立ち合いのもと行っている。備蓄も適切である。	訓練時には前もって地域に声がけをし、地域を積極的に巻き込み、協力体制の構築に期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支本人・ご家族様の意見も聞き、ケアプランの作成をしている

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬う気持ちを忘れず、一人ひとりに合わせた対応をしている	入居者との言葉遣いにおいて、親しみやすさと馴れ馴れしさとの違いを理解し、場面ごとの対応のメリハリをつけることを職員全員が常に意識するよう指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人が自己決定出来るような声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活での制限もあるが、生活のペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選択出来るように支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片づけなど積極的にお手伝いしてくれている方が多い 食事メニューも一緒に考えたりしている	家庭的な手作り食で、メニューは豊富で季節の料理、行事食にも力を入れている。利用者は自分の役割として、片付けを積極的に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事・水分量共に、1人ひとりに合わせた量の把握をし記録に残している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けをし、自身で出来る方はすすんで行っている また歯科医からの助言も活かしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1人ひとりの状態を把握し、パットやリハビリパンツを使用している 介助が必要な方もトイレでの排泄を進めている	見守りにより利用者ごとに時間管理を行い、できる限り自立を促せるよう、細やかな支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動などを進めているが必要に応じて医師に相談している		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	共同生活なので制限もあるが、希望に添えるように対応している ゆったりとした入浴となるよう支援している	入浴が困難な状態の方や拒まれる方には清拭を行う事で清潔さを維持している。 ゆっくり時間をかけて湯につかってもらう事により入浴の楽しさを味わってもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣や状況に合わせて声掛けを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をまとめて、いつでも確認が出来るようしている。また、薬剤師とも良い関係が取れている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活家事や体操など役割や目標達成出来るよう支援につなげている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は外出出来ず、室内で過ごすことが多くなっている 庭先への散歩などを進めている	気候を見ながら、近所を散歩をしたり、駐車場や玄関前で外気浴をしたりして、短時間でも外の空気に触れ、季節を感じられるように気を配っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しいが買い物時には自身で支払い出来るように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状や電話など希望に応じて対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い生活となるように共用空間は季節を感じていただけるような雰囲気作りを心がけている	共有スペースや廊下には、季節を感じられる装飾をし、家庭的で快適な空間づくりに配慮している。	

53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングでは気の合う人たちが集まる空間となっている 居室で過ごされたり、思い思いに過ごせる様に支援している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間が過ごしやすいうに馴染みの物を持ち込んでもらっています	利用者の居室は、希望があれば家具などの使い慣れたものの持ち込みを可能としている。常に気持ちよく利用者が生活できるよう、清掃にも気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事の継続のために「トイレ・お風呂」などわかりやすく掲示している		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族の3分の2くらいが
			③家族の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

グループホームはるすのお家・阪南 ききょう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビング内に掲示し、スタッフ全員で共有し実践に向けて努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域との関わりを大切にしている。地域の行事などには参加出来るよう調整している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談など実施したいと考えるが電話対応のみとなっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、行政・ご家族様と情報共有をしサービスに活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課などの関係課との連携を大切にしている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会を設置し、定期的な会議、また研修等を通じて全スタッフに周知している		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や学ぶ機会を大切に虐待防止につなげている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がいる為、制度について少しずつ理解を深めている		

9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や、契約時など不安の無いように説明をしている。疑問点などは後日でも対応出来るよう心がけている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見など、日頃からのコミュニケーションを大切にし関係作りをしている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員が意見を言いやすい雰囲気作りを心がけている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度の人事考課、また日頃からのストレスケアなどにも気を配っている 事業所内は風通しの良い環境作りに気を配っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実力の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には参加出来ていないので内部研修の充実、または市内の勉強会などへ参加をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターを中心に働きかけてくれているが、実際はなかなか難しい		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの情報や、会話の中や行動から見える事を大切にしています	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安などに耳を傾け、安心した生活が始められるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期だけでなく、その都度状況を把握し必要なサービスへつながるよう支援している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活する」の気持ちを大切にし関係作りをしている	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関係は切っても切れないものであり、関係性はとても大切にしている	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後は疎遠となってしまうことも多いが、関係を継続出来ることも伝え支援につなげている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じてスタッフが間に入り、交流しやすい雰囲気作りを心がけている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関係も大切にしているが、看取りまで行うことも多くその後のご家族支援は少ない	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いに寄り添い、希望などを生活に取り入れるようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様から情報収集しケアにつなげている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりを大切にし、状態の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族様の意向に沿いケアプランに反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人支援記録・連絡ノート等をを用いて情報共有し、ケアプランにも活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内で出来ることは希望に添えるように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェや買い物など、今年度は活用出来ていない		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・ご家族様の希望に沿った医療が継続して受けられるよう支援している		

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週に1度の訪問時だけでなく、日々の状態の情報共有をし、相談等もしやすい良い関係が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際、地域共通の情報連携シートの作成、また地域連携室等との関係作りに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医との家族診も含め、本人・ご家族様の希望に添えるように、また事業所で出来る事もしっかりと伝え対応している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故時の対応の研修を定期的に行い、適切に対応出来るようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定し、研修等も含めて対策を取っているが、地域の協力体制はまだ足りていない		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬う気持ちを忘れずに、1人ひとりに合わせた対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりが自己決定出来るような声掛けをしている、また選択出来るような関わりも大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活での制限もあるが、一日を大切に過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選択出来るように支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備など出来ることをお手伝いしていただいている。食事メニューも希望を取り入れたりしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事・水分量共に一人ひとりに合わせた量の把握をし記録に残している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けをし、自身で出来る方は進んで行っている 歯科医からの助言も活かしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄をすすめている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動などを進めているが、必要に応じて医師に相談している		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	共同生活なので制限もあるが、希望に添えるように対応している 入浴が安全で楽しみあるように支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣や状況に合わせて支援に繋げている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をまとめて管理し、いつでも確認できるようにしている。また薬剤師への相談なども出来、良い連携が取れている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活家事や趣味を生かした役割など、生活に取り入れている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は外出を控えていたので、庭先への散歩などを進めている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しいが、買い物時には自身で払えるよう支援したり、自身で家計簿を付けている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状や電話など希望に沿って対応している 手紙のやり取りなど楽しまれている方もいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い生活空間となるように、共用空間は季節感を取り入れて良い雰囲気となるようにしている		

53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングでは気の合う人たちが集まる空間となっている居室で過ごされたり思い思いに過ごせるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間は過ごしやすいように、使い慣れた馴染みのあるものを持ち込んでいた		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の「トイレ」「お風呂」などわかりやすく掲示しているので、出来ることの継続につながっている		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ②数
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない ②家
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない ③ ④ほとん

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	①ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
			②
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族の3分の2くらいが
			③家族の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない